

## 国立劇場再整備に関する有識者検討会（第1回） 議事要旨

1. 日 時 令和6年3月26日（火） 17:00～18:30

2. 場 所 独立行政法人日本芸術文化振興会 第1会議室

3. 出席者

（委 員）尾上委員、佐藤委員、板東委員、平子委員、宮田委員

（振興会）長谷川理事長、杉浦理事長代理、大木理事、切替理事

4. 議事要旨

（1）座長の選出及び会議の公開

- ・板東委員を座長に選任。
- ・検討会は非公開とするが、議事要旨については公表することを決定。

（2）意見の概要

- ・伝統芸能関係者の思いは、「PFIの動向に左右されるのではなくて、国がしっかりと財源を用意すべきだ」ということ。また、国立劇場は日本の顔となる建築物であり、魅力的なものとするべき。
- ・社会・経済状況の変化により当初の想定を超えた部分に関しては、やはり国が支援・工面すべきだろう。しかし、国がその考えに至らないのは伝統芸能が重要視されていないのではないか。あわせて、伝統芸能の価値を国内外へもっと伝えていく必要がある。
- ・どこまでをPFI事業の対象として考えるのか、またどのような条件（ホテルなど）をつけるのか、そしてそれらを踏まえどういった要求水準を設定するのか。いろいろなバリエーションが考えられ、再検討が必要ではないか。
- ・デフレ状況が変わってしまった結果、PFIの方式だけに頼るのは非常に厳しい状況になったと言えるのではないか。
- ・3回目の入札が最後のチャンスだという覚悟を持たないといけない。国と振興会が大きな方向性をすり合わせる必要がある。また、振興会と関係省庁による推進体制における全体のプロジェクト管理も重要な部分である。
- ・品格ある日本の顔としての劇場として十全な建物をつくるのが最大の目的だと思う。予算の問題でホテルを併設させるのが腑に落ちない。品格ある劇場のために何が付随できるか、本当に付随しなければならないものを決めてから検討すべき。
- ・一刻も早く入札を成功させることがミッションだと考えている。一番大切なことは何なのかをしっかりとおさえたうえで、国立劇場の事業は持続的でなければいけないという観点で財源の問題も含めて議論するのがよいと思う。
- ・劇場ができたあとも維持管理運営費はかかってくる。まさか改修案に戻ることはないだろうが、空白期間を少しでも短くするため、まずは止まらずに進めることを前提で考えないといけない。

●本日の議論をまとめると、以下のとおり。

- ・国立劇場の重要性にふさわしい施設にすることが必要。その実現を一刻も早くしなくてはいけない。
- ・劇場機能だけでなく、育成やバックヤードの機能は重要であり、現プランは大事にする必要がある。
- ・国民や日本の文化にとっての伝統芸能の重要性を認識したうえで、伝統芸能の世界への発信や、日本を訪れる世界の方々との交流の機能の強化も非常に重要である。
- ・国立劇場だから国が予算を出すべきだが、その場合においても、民間の力を含めていろいろな方式を組み合わせることも大事である。
- ・劇場運営のためには多年にわたって資金を確保できる方法も組み合わせる必要がある。
- ・国や国民にもっと国立劇場の重要性を理解していただき、予算を確保していくことが重要である。

●また、今後の議論のポイントは、以下のとおり。

- ・これまでの PFI 方式について、ホテルなどの条件設定も含めてもっと柔軟性のある PFI のあり方を志向していくべきではないか。
- ・資金調達などについて、オール・オア・ナッシングではなくて、もう少し必要な措置や選択肢について検討していく必要がある。
- ・将来に向けて、いろいろな収入方策についても検討する必要がある。

以上